

経営者への活きた言葉

日本は 5年以内に財政破綻の危機ジャック・アタリ(経済学者・元欧州復興開発銀行総裁)

1. 日本は約20年前に経済・財政の危機へ突入しました。現在の状況は他国よりも深刻です。

というのは、危機常態化し、より悪化しているからです。
日本は勇気を持って対処すれば、危機を解決できたはず。
だが、そうすることができなかった。

カナダとスウェーデンも、日本と同時期に危機に見舞われましたが、両国は見事に脱出しました。
カナダは歳出を大幅に削減。スウェーデンは困難な状況にある銀行を国有化し、増税にも踏み切りました。今は両国とも危機に瀕していません。
2. 日本は米国やフランスにない少子高齢化の問題も抱えています。日本がこのまま手を打たないと、おそらく10年を待たずに破綻するでしょう。

やがて貯蓄だけでは公的債務を賄い切れなくなる。破綻に陥るまでの期間は向う5年以内。
だが、5年以内に起きるのが不可避の事象であると予測できた場合、実際には 2年以内に起こる。
それが歴史の教えるところです。
3. この危機の深化を回避するためには、人口問題に関する長期的視野からの政策を導入すべきです。

並行して少なくとも向こう3年は歳出を大幅に削減しなければなりません。
年率10%台のカットです。同時に税金を増やさなければならないのは論をまたないところ。
増税は3年をタイムリミットに実行。いったん結果を見たうえで、維持あるいは存続の是非を検討する。
こうしたプロセスを実施に移せば、債務危機は乗り越えられます。

(参考:「週刊東洋経済」2011年2月12日号)

経営者のための理念・哲学

すべての仕事に共通する普遍の法則

1. 昨年10月、ノーベル化学賞を受賞された根岸英一さんが、長年の体験からつかまれた発見プロセスを次のように説明した。発見はまず、こういうものが欲しい、こうなったらいいという「ニーズ」「願望」が出发点である。

そのニーズや願望を達成するために「作戦」を練る。この作戦でいこうと決めたら、それに沿う方向で「系統立った探求」を始める。この系統立った探求が難物である。
2. 途中で、もうやめようか、と迷う瞬間が何度もある。失敗が続き、こんなことをやっても無駄だ、と思う時がある。その時、「いや、絶対に屈しない。これでいくんだ」と思い続けられるかどうか。

そう思い続けるには、「知識」「アイデア」「判断力」が要る。この三つが不屈の「意志力」「行動力」を生む基になる。これらの難関をくぐり抜けて「幸運な発見」が生まれる、というものである。
この発見プロセスはあらゆる仕事に共通した普遍の法則である。

(参考:「致知」:2011年5月号)